

令和4年度

新宿区立四谷第六幼稚園 経営計画

園長 岩澤 肇

1 教育目標

人間尊重の精神を培い、知性・感性に富み、国際感覚をそなえた人間性豊かで、心身共に健康な子どもを育成する。

- ① 明るく元気な子ども ② よく考える子ども ③ 思いやりのある子ども

2 基本経営方針

関わる人すべてが誇りに思える園【四六プライド】

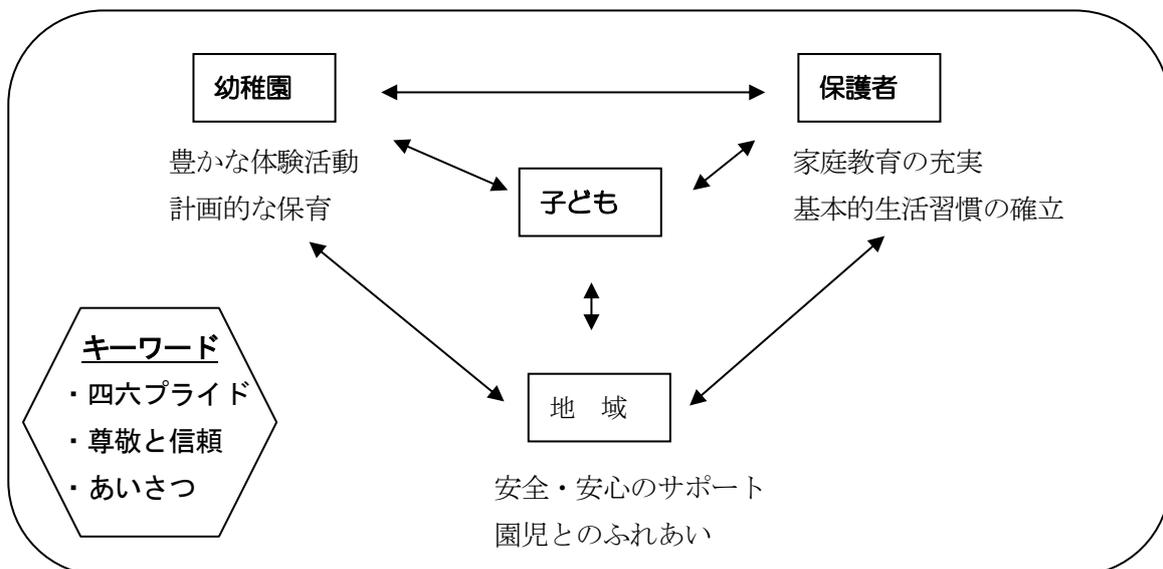
①安心・安全 ②楽しいまなび ③誇りをもてる園

「明るく元気な子ども」の実現のために、まず、「安心・安全な」教育環境が必要である。特に新型コロナウイルスの感染防止に対して最大限の配慮を行っていく。

「よく考える子ども」の実現のために、「楽しいまなび」のある毎日を築かなければならないと考える。楽しい活動の中で、自ら考え学ぶ子どもを育てていきたい。

「思いやりのある子ども」の実現のためには、地域・保護者・教員が誇りを感じる園であることが大事である。そのために「挨拶が飛び交う」等の具体的な姿をていねいに実現していく。

子どもを中心にした園・保護者・地域のつながり



3 育てたい幼児像

- (1) 朗らかで、体を動かすことが好きな子（明るく元気な子ども）
- (2) 心と体を健康に保つことができる児童（明るく元気な子ども）
- (2) 遊びの中で考えたり工夫したりできる子（よく考える子ども）
- (3) すずんで絵本に親しみ、自然と触れ合うことができる子（よく考える子ども）
- (4) ルールやマナーを守り、友達と仲良く遊ぶことができる子（思いやりのある子ども）
- (5) 友達や生き物に優しく接することができる子（思いやりのある子ども）

4 目指す幼稚園像 **関わる人すべてが誇りに思える園【四六プライド】**

(1) 園児にとって『明日も行きたい幼稚園』

- 楽しい遊びの場
- 心通わせる友達
- 自分を理解してくれる先生
- ・さまざまなことを体験でき、友達とのかかわりが深まる幼稚園
- ・いろいろな遊びや活動を通して、自分を表現することができる幼稚園
- ・近隣の幼稚園、子ども園、小学校と積極的に交流する幼稚園
- ・幼児一人一人を大切にし、ほめて伸ばす幼稚園
- ・一緒に遊んだり、話を聞いてくれたりする先生がいる幼稚園

(2) 保護者にとって『信頼できる幼稚園』

- 基本的な生活習慣の確立
- 保護者に寄り添い、何でも相談できる体制づくり
- 規範意識や道徳性の育成の重視
- ・社会生活の基礎をきちんと身に付けられる幼稚園
- ・教職員の共通理解が図られていて、園の方針が分かりやすい幼稚園
- ・幼児一人一人の好奇心と意欲を引き出す遊びの場を提供する幼稚園
- ・小学校との連携を通して、3歳から12歳まで見通しのもてる幼稚園
- ・悩みや不安に親身になって対応してくれる幼稚園
- ・体力向上や健康の保持増進を目指して、計画的に活動を工夫する幼稚園
- ・専門職・公務員としての自覚と自信に溢れた教職員の姿の見える幼稚園

(3) 教職員にとって『働きがいのある幼稚園』

- 自己の資質の向上を目指し、専門性を高められる環境
- 園の中で自分の力が発揮できる組織
- 幼児とじっくり向き合い、幼児とのかかわりを楽しめる時間の確保
- ・教職員が信頼し合い、協力し合う幼稚園
- ・職員室が保育の話、子どもの話であふれる幼稚園
- ・自分の思いを表現できる幼稚園
- ・幼児とのかかわりの楽しさややりがいを他の教職員と分かち合える幼稚園
- ・働き方を工夫することで、余裕をもって計画的に仕事ができる幼稚園

(4) 地域にとって『誇れる幼稚園』

- 地域の施設や自然・文化、人々とのかかわりを大切にした多様な学習活動の工夫
- 地域の諸行事や活動への参加と交流、地域の教育力の活用
- ・園庭などが整備され明るく清潔な幼稚園
- ・校庭の芝生を活用し、地域や関係諸団体との確かな連携を深める幼稚園
- ・地域の教育力を積極的に取り入れる幼稚園
- ・情報発信し、園の活動をわかりやすく説明する開かれた幼稚園

目標と方策

「幼稚園教育要領」が示す幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり
 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現

1. 保育内容や方法を工夫・改善し、保育の質を高める。
 - ① 教育要領の確実な実施
 - ② 指導計画を整え、意図的・計画的に保育を実施する。（週案の提出）
 - ③ **多様な体験ができる保育の構築**
 - ④ 教員一人一人が、園内研究、個人研究に取り組む。
 - ⑤ **特別な配慮が必要な幼児、保護者へのきめ細かな支援**
 - ⑥ 保護者アンケートを実施し、効果的な園評価及び改善を行う。

2. 健やかな心を育てる。
 - ① **言葉でのコミュニケーションを重視する**
 - ② いじめの芽となるような言動に対するきめ細やかな指導
 - ③ 友達関係等の実態を全職員で共通理解し指導に反映する。
 - ④ 小動物の飼育や栽培活動を通して命の大切さに気付けるようにする。
 - ⑤ **子どもの変化に気付く感性を磨き、問題には組織で対応する**

3. 園児の体力向上と健康増進を図る。
 - ① **体を動かす活動の工夫・重点種目（短縄・長縄・持久走）の設定と実践**
 - ② 遊具や用具の効果的な活用
 - ③ 小学校の校庭の活用

4. オリンピック・パラリンピック教育の推進
 - ①運動に関する関心と意欲
 - ②日本文化の体験
 - ③外国文化への興味・関心
 - ④アスリートとのふれあい、交流

5. 家庭・地域とともに園児を育てる。
 - ① 保育参観や保護者会、各種便り等を通して、園やクラスの方針を発信する。
 - ② 役員会、運営委員会で保護者との情報交換をし、共通理解を図る。

6. 小学校・近隣子ども園等との交流教育を充実させる。
 - ① 日常的な四谷第六小学校との交流
 - ② 近隣子ども園、保育園、幼稚園との交流

7. 服務事故0の幼稚園であり続ける。
 - ① 服務事故防止研修の実施
 - ② 「**服務事故は絶対起こさない。**」という自覚
 - ③ 服務規律の徹底

8. 安全・安心な環境を作る。
 - ① コロナウイルスの感染防止に向けての対応
 - ② **安全点検の実施（複数の目で確認）**
 - ② 保育室・遊戯室・園庭等の整理・整備
 - ③ さまざまなことを想定した避難訓練を実施
 - ④ 不審者の侵入に対する対応訓練

9. 「チーム四六・四六プライド」の自覚
 - ① 自己の研究・研修による個の能力の向上
 - ② 現状にとどまらない、新たなチャレンジ
 - ③ お互いにカバーし合える職員連携
 - ④ 事件にしない事故対応（**報連相の徹底・素早い対応**）
 - ⑤ 「**聞く**」姿勢、認め、ほめる指導（**児童・保護者・地域・同僚**）
 - ⑤ Face to face の関係づくり （**保護者・地域**）